

1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)		分野・領域	項目数	「できている」項目数	
				外部評価	
<p>常盤平駅から徒歩2分という便利な立地条件にあるホームである。内部はあらゆるところに手すりが設置され、バリアフリーになっている。入居者の方たちに寂しさを与えない家庭的な雰囲気を提供するため、常に接点を持つことを職員一人一人が心がけている。大げさでなくさりげないケアを行っており、落ち着いた雰囲気の中で1日を過ごしている。ケアスタッフは記録の重要性を認識しており個別記録にはその日の水分摂取量や生活の様子などが日勤帯と夜勤帯で色分けされ細かく記入されている。開設して間もないホームだが、地域や家族との交流など、今後に大いに期待が持てる。</p>					
		I 運営理念			
			① 運営理念	4項目	4
		II 生活空間づくり			
			② 家庭的な生活環境づくり	4項目	3
			③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	5
		III ケアサービス			
			④ ケアマネジメント	7項目	6
			⑤ 介護の基本の実行	8項目	8
			⑥ 日常生活行為の支援	10項目	10
	⑦ 生活支援	2項目	2		
	⑧ 医療・健康支援	9項目	8		
	⑨ 地域生活	1項目	1		
	⑩ 家族との交流支援	1項目	1		
IV 運営体制					
	⑪ 内部の運営体制	10項目	10		
	⑫ 情報・相談・苦情	2項目	1		
	⑬ ホームと家族との交流	3項目	2		
	⑭ ホームと地域との交流	4項目	3		
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)				
I	運営理念の具体化及び職員間での共有などはしっかりと行われている。権利や義務も明示されており、特に改善点はない。今後は、運営理念啓発のため、ホーム便りの発行が待たれるところである。				
運営理念					
II	エアコン・換気扇完備の居室に、入居者が各自持ち込んだ家具が置かれている。共用空間にはソファが置かれ、個々にくつろぐことができる。しかし玄関入り口の自動ドアが手動になっていることが明示されていない。近隣の住民が訪れやすいよう工夫することが望まれる。また、共用空間に手作りの暦が見やすくかけられているが、時計の位置が高く見づらいため、目に付く位置に設置することが望まれる。				
生活空間づくり					
III	一人一人に合わせたケアプランが作成され、日々の記録も詳細に書かれている。しかし入居者に変化が生じた際は随時ケアプランの見直しを行うようにすることが望まれる。職員間では1日2回の申し送りと月に1度のミーティングで意見交換を行っている。これを継続することでより良いケアサービスを提供できると思われる。協力医療機関の連携が取れており心強い。昼食後の口腔ケアは、全員に行われていなかった。入居者全員が毎食後口腔ケアを行う習慣をつけることが望まれる。				
ケアサービス					
IV	民生委員・自治会・在宅介護支援センター・駅職員など、地域への協力や呼びかけを積極的に行っている。ホームを地域に開放する計画もあり、大いに期待される。一方で、入居者の家族に定期的に報告を行ったり、相談窓口を明確にして家族の不安や疑問を吸い上げられる体制作りが必要と思われる。				
運営体制					

2. 評価報告書

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己					
	I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1 ○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			笑顔を決やさず入居者に寂しさを与えない家庭的な雰囲気心がけている。入居者の自立支援を目指し、常に接点を持つよう職員に話している。	
2	3 ○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○			各フロアに掲示してある。	
3	4 ○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			契約書に明示されている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5 ○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)	○			ホーム便りは作成されていないが、地域の在宅介護支援センター等にパンフレットを置いたりしている。	
運営理念 4項目中 計		4	0	0		
	II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 ○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○			玄関まわりには花が植えられ、わかりやすい表札がある。しかし自動ドアが手動になっていることの説明がないため、鍵がかかっているように見える。	「子ども110番の家」でもあり、手動開閉であることの明示が必要と思われる。
6	7 ○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			テーブル・ソファ・食器棚・電化製品などは家庭的なものを使用している。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			食堂のテーブル以外に、ソファやベンチなどで個々に過ごすことができる。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			ベッド・たんす・テレビ・椅子など居室内のものはすべて入居者自身が持ち込んでいる。仏壇やコタツを持ち込むこともできる。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			3	1	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			居室・廊下・トイレ・浴室・玄関には手すりが設置されている。室内には段差がなく車椅子でも自由に移動できる。物干しの高さは2段である。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			居室に表札や写真などがあり、トイレや浴室にも木製のプレートで分かりやすく示されている。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			フロアによって採光の調節をしている。1階は光がよく入るよう、逆に2階は日当たりが良すぎるためまぶしすぎないように、カーテンで調整している。職員の会話のトーンも穏やかで落ち着いた雰囲気になっている。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			各部屋に換気扇とエアコンが設置されている。温度調節と同時に湿度の管理にも気を使っている。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			日付と天気分かりやすく記された手作りの暦は見やすい位置にある。しかし時計が高く見づらい位置にあった。	時計の位置を低くして、入居者がいつでも見られるようにしていただきたい。
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			かばんやカメラ・裁縫道具などを使用している。	
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			5	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			個々の状態に合わせた介護計画を作成している。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			入居者の個別のファイルに入れ、職員が内容を知ることができる。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			家族の意見と入居者の意見を取り入れながら作成している。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。		○		介護計画作成後6ヶ月が経過しているが、まだ誰も見直しがされていない。状態の変化により計画が変更になった場合でも、計画書には記入されていない。	最低3ヶ月に1回の見直しとともに、設定した期間内でも変化があった場合は、柔軟に見直すことが必要と思われる。
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			個人の日誌には水分摂取量や一日の状態が、日勤者は黒字・夜勤者は赤字で時間の経過ごとに記入されている。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にし、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			1日2回(10:00と16:30)の申し送りを確実にしている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			毎月第3木曜日に会議を行い、意見交換を行っている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			6	1	0		

項目番号	外部	自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
			2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27		○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			入居者に丁寧な声かけを行っている。	
23	28		○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で接している。	○			穏やかでゆったりとした声かけを行っている。	
24	30		○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			華道をしていた方に花を活けていただいたり、昼夜逆転傾向にある方に若いころのなじみの物品を用意して改善したりされている。	
25	32		○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			起床時間や朝食時間は自由である。昼食時間は決まっているが、動作がゆっくりの方でもせかすことはない。	
26	33		○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			決められた時でなくても、希望したときは買い物や理髪店に行くことができる。	
27	35		○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			洗濯物をたたむ・調理・配膳など、日常の家事などは積極的に行っていただいている。	
28	37		○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			職員は身体拘束の内容をきちんと理解している。身体拘束は行っていない。	
29	38		○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			日中玄関に鍵をかけていない。	
介護の基本の実行 8項目中 計				8	0	0		

項目番号	項目		できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	外部	自己					
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			入居時の持ち物に明記している。希望者はなじみの食器を使用している。	
31	44	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			嚥下困難がある方にはおかゆや刻み食を用意している。彩りもよくおいしそうな盛り付けをしている。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			1日1500カロリーを目安にしている。水分には気を使い、個別記録に1日の水分摂取量を随時記入し、確認している。	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員も一緒に食事をしている。こぼした際などは大きな声を出さずにさりげなくティッシュを渡すなどしてサポートしている。	
		2) 排泄					
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			排泄パターン表を活用している。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			さりげなく誘導している。	
		3) 入浴					
36	53	○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			入浴の順序を決めるときなどは本人の希望を聞きながら行っている。希望が重なった場合は、話し合っって納得していただいている。	
		4) 整容					
37	56	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			訪問理容を行っている。希望者は理髪店に職員とともに行くことができる。毛染めなども行うことができる。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			自然にさりげなく行っている。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			夜間不眠者には日中楽しみごとを持って起きていることで改善している。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			お金を持つことで安心する方や自己管理が可能な方は数千円程度の現金を持っている。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			レクリエーションやテレビ・配膳・食器洗い・洗濯物たたみなど、役割や楽しみごとを見出せるよう支援している。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			協力医療機関の訪問診療の医師に曜日や時間を問わずいつでも相談し、指示を受けることができる。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			医療機関と話し合い、早期退院に向けて支援している。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			市の健康診断を受けるよう支援している。	

項目番号	項目		できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	(6)心身の機能回復に向けた支援						
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			毎日の体操や散歩、買い物などを通して維持・向上に努めている。また「転倒予防チェック表」を活用して転倒予防をしている。	
	(7)入居者同士の交流支援						
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			トラブルが起きた際は職員が間に入り、原因を聞いて話し合いを行っている。	
	(8)健康管理						
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)		○		口腔ケア支援は毎食後に行うことが求められるが、昼食後に支援を受けていた入居者はあまり見られなかった。	口腔ケアによって、残渣物が口腔内にたまらないよう、毎食後全員に支援することが望まれる。
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			薬は事務室で個人個人の引き出しに管理されており、その日のリーダーが受け取りにいく仕組みになっている。2度のチェックで、服薬を確認できるようになっている。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			「応急マニュアル」「緊急時対応マニュアル」がリビングに置いてある。職員も個々で持っている。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			手洗い・うがいの励行により感染症予防に努めている。	
医療・健康支援 9項目中 計			8	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			積極的に散歩に出かけている。買い物にも行くことができる。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			日々家族が面会に訪れている。家族同士の連絡帳があり、自由に記入している。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			互いに密な連携をとり、常にケアサービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受け入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			職員の採用や入居者の受け入れの際は職員に意見を聞いている。	
		2. 職員の確保・育成					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			入居者の生活の流れに合わせてローテーションを組んでいる。休憩時間を数回に分けて取るなどして、入居者の生活や業務の流れに支障がないようにしている。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			採用時5日間の研修を行っている。また希望した際は、随時研修に参加できるよう支援している。	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			月に1度会議を行い、話し合いを行っている。	

項目番号 外部 自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107 ○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			入居希望者は、訪問面接による本人・家族面接を行い、診断書を提出して入居の可否を検討されている。	
59	109 ○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			契約解除に関する規定が契約書に明示されている。退居する際は納得のいく退居先に移れるように支援する体制ができています。	
	4. 衛生・安全管理					
60	112 ○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			食器乾燥機を使用し、また消毒を行い清潔に努めている。	
61	114 ○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬や刃物の保管場所が決められている。	
62	116 ○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			事故報告書がある。けがや転倒など、事故が起こった際は報告書に発生の状況・対応した方法・家族への説明等を記入する。また、ホーム長や代表が確認し、押印した上で本社にファックスし、法人全体で再発防止に努めている。	
内部の運営体制 10項目中 計		10	0	0		
	5. 情報の開示・提供					
63	118 ○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			積極的に情報を提供している。	
	6. 相談・苦情への対応					
64	119 ○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。		○		家族が面会に来た際に話をするようにしているが、苦情や相談を受け付ける方法が明確にされていない。	苦情箱や手紙などを利用して家族の相談等の受付方法を明確にする事が望まれる。
情報・相談・苦情 2項目中 計		1	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7. ホームと家族との交流							
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			面会時には声をかけて最近の様子を話している。	
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等		○		面会の際に伝えたり、ホーム内に写真を掲示しているが、個々に写真を郵送したり「たより」の発行はしていない。	家族に入居者の最近の様子を定期的に伝えていく方法を取っていくことが促される。
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			金銭出納帳を作成し、レシートと出納帳のコピーを送付している。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			2	1	0		
8. ホームと地域との交流							
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。		○		在宅介護支援センターや民生委員等と連絡は取っているが、市町村事業の受託は行っていない。	今後地域に根ざしたグループホームとして、家族の相談や介護教室などを積極的に行うことが必要と思われる。
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			今後、地域の人たちが遊びにこられるようにサロンなどを視野に入れた話し合いが行われる予定である。	
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			近隣の理髪店・薬局・在宅介護支援センターなどの協力を得ている。駅に近いことから特に駅職員には協力してもらっている。	
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)	○			研修の受け入れや家族等の見学には積極的に対応している。サロンをオープンして地域に開放したいと、話し合いが行われる予定である。	
ホームと地域との交流 4項目中 計			3	1	0		

※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
 (2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。